7月号の特集は、今年の運動会どうする？

コロナ禍の中、運動会で大切にしたいこと、こだわりたいことは？昨年の密をさける工夫などの実践経験と小論に学びあい、今年の運動会を創造していくか考えあいましょう。『ちいさいなかま』昨年の7月号も運動会が特集されています。あわせて、読んでみてはいかがでしょうか。

◎実践　子どもの姿から考えあったことが大きな力に！【24 頁～】

・「そもそもどうして運動会を行うのか？」が全職員で話しあわれていなかった。
・話し合いの結果（１～３歳児はクラス別、４・５歳児は日常の保育から考えていっしょに、分散で開催）をお手紙にして保護者に発信しました。
・分散して開催したら少しさみしくなるかなと思いましたが、例年にないくらいアットホームという雰囲気でした。
・形を変えても、保護者と子どもたちの大きくなった姿を喜びあえ、私たちの保育に向けるまなざしも伝えられたかな、と思います。
…横浜市・鳩の森愛の詩宮沢保育園

◎実践　育ちあいが花開く運動会に【29 頁～】

・参加は３～５歳児の子どもたちとその父母、そして職員のみ。
・「大家族のように、みんなで支え、みんなが輝く運動会だったね」との声が。
・「子どもたちのリレー」は、年長児全員とリレーに参加したい年中・年少児が集まり、年長児を中心に話し合いがスタート。そして、年長児の四つのチームに走りたい年中・年少児が割り振られ、混成チームによる「この日だけのチーム」が。
・「子どもたちのリレー」での年齢別のクラスをこえた育ちあいは、昨年春からの「保育園の利用自粛」の大波のなか、登園児童数が約半分となり、以上児・未満時に分かれたり、ときにはゼロ～５歳児がいっしょにくらしたり、それぞれの年齢本来の取り組みもすることになったことが土台となっていたようです。
・子どもたちの「やってみたい」思いに寄りそい、なかま同士がつながりあう「なにげない日々のくらし」を充実させることを大切にしようと、職員集団で何度も確認しあいながらくらしづくりをすすめてきました。
・運動会の開催についても、コロナ下で制限はあっても、中止するのではなく「コロナ下だからできること」「どうすればくふうすれば、日常の子どもたちの育ちあいや輝きを喜びあえるか」を職員集団で議論していきました。そのなかで職員同士が共有したこと・思いは、保護者のみなさんにも伝え、同じ思いをもちなが

らいっしょに運動会を迎えました。**※「コロナ下」は記述通り。**

・行事のためのくらしではなく、日々のくらしの延長線上に運動会の取りくみがあることで、個人の競いあいではなく、子どもたちの「なかまとなら、いろんなことに挑戦できる」「なかまといっしょが楽しい」というみんなでの育ちあいが花開く場となったように思います。　…山形市・はらっぱ保育園

◎小論　コロナ下の運動会で大切にしたいこと【34 頁～】・・・

・これまで保育観をおおよそ共有していると思っていた同僚と、コロナをきっかけに考え方の違いが明らかになって、驚いたこともあったかもしれません。

・職員集団のあり方もまた問われる機会だったと思います。

・園の伝統の危機は、かえって新たな文化を創造する契機になることもあります。

・発達心理学者の岡本夏木さんはかつて、子どもたちが創り上げ、子どもの間で伝承されてきた「子どもの文化（わらべうたなど）」と、おとなが子ども向けに与えている「子ども向けの文化(玩具やテレビゲームなど)」を区別し、最近は後者が肥大化していることを指摘しました。

・今年度どのような運動会になっても、子どもとともに歩む時間(プロセス)を大事にしていきたいと思います。　…三重大学・吉田真理子**※「コロナ下」は記述通り。**

★新連載：聞いて下さい　保育・子育て　私の悩み④【54 頁～】

＜相談＞三歳児クラスの担任です。席に座るとき、絶対にこの場所！この席がいい！〇〇ちゃんの隣がいい！など場所の取りあいになります。こんなときどうすればいいのでしょうか？(保育士・保育歴1年)　…今月の回答者：金沢大学教授・滝口圭子

★新連載：保育、こんなときどうする？　どう考える？プチ④「待つ保育」って　どんなこと？～その 1【82 頁～】

・どんなことを「待つ保育」といっているのかは、人によってずいぶん異なっていることに気づきます。　…元帝京大学教授・清水玲子

★連載：夢中になってあそび込む　豊かな実践から探る「保育の知」④【86 頁～】

・保育者と保護者が、同じ目線で子どもの姿をとらえることの大切さについて、ある五歳児クラスで展開した「縄あそび」の取りくみを通して、考えてみたいと思います。

・本事例は、「回り道」をすることで、子どもたち、そして保育者自身が、あそびのおもしろさに気づく機会を与えてくれることがあるということです。

…東京都立大学・田中浩司